下野市立吉田東小学校

１　学校課題

（１）研究主題　　「主体的・対話的で深い学びの充実による表現力の向上」
～コミュニケーション能力向上を目指した学び合い活動～

（２）主題設定の理由

本校の子どもたちは、「話す」「聞く」「書く」など、自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童が多い。また、自分の考えを伝えることや課題を追究することに自主的に取り組める児童が少ない。自分の考えを言語化し伝えることに抵抗があるために、学習に対し受動的になっていると考えられる。そこで、国語科においては「話すこと・聞くこと」や「書くこと」を中心に基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりしたい。また、各教科において、国語で培った能力を基に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、『主体的・対話的で深い学び』を充実させたい。以上のことから、児童の学習意欲と表現力が高まり、コミュニケーション能力が向上すると期待し、本主題を設定した。

ことばタイム

２　研究計画

（１）研究の仮説

Ａ　学び合い活動の充実

グループやペア、全体による話合い・異学年間の交流など、児童が主体的に表現できる場を工夫し、設定することで表現する喜びを味わうことができ、主体的な学び合いに繋がるのではないか。

Ｂ　言語力の向上

「ことばタイム」の実施や「学習スキル」を設定し、各教科及び日常生活全般で系統的に指導することで、児童の言語力が高まるのではないか。

（２）各教科での取組

・めあての明確化（興味や達成感がもてるような設定）と振り返りの充実
・意欲的に問題解決が図れる課題の設定
・児童が意欲をもって取り組める教材の工夫
・学習形態の工夫（グループ、ペア、全体、異学年など）による学び合い活動の活性化
・基本的話型の指導徹底
・「話すこと」「書くこと」が苦手な児童への支援の工夫（教材の工夫、題材の内容、心理面への配慮）
・「話す」「書く」についての系統的『学習スキル』の設定と指導
・作文ノート、道徳ノートを活用した指導
・各教科における研究授業、授業研究会での成果と課題

2 年生算数「たし算とひき算の図」

３　研究内容

（１）授業研究の概略

日程	学年	教科	単元名	外部アドバイザー	
7/ 4（火）	２年	算数	「たし算とひき算の図」【要請訪問】	下都賀教育事務所副主幹 下野市教育委員会	阿部信太郎先生 白石孝子指導主事
7/14（金）	６年	算数	「速さ」【Ｓ＆Ｕコラボ】	宇都宮大学教授 下野市教育委員会	日野圭子先生 白石孝子指導主事

10/20 （金）	３年	学活	「えっ、その情報信用できるの？」【情報モラル研究部会】	下野市教育委員会　　田澤孝一指導主事
11/1 （火）	５年	算数	「単位量あたりの大きさ」 【要請訪問】	総合教育センター指導主事　庄司由香先生 学力向上応援団専門委員　　綱川淨恵先生
11/21 （火）	４年	国語	「『クラブ活動リーフレット』を作ろう」【S&U コラボ】	宇都宮大学附属小学校教諭　八巻　修先生 下野市教育委員会　　稲葉亜希恵指導主事
12/21 （水）	１年	国語	「ともだちにきいてみよう」 【S ＆ U コラボ】	宇都宮大学附属小学校教諭　八巻　修先生 下野市教育委員会　　岡本直美指導主事

（２）日常での取組　　★H２９年度に新規実施

書く スキル	○作文発表の実施（学級、全校生の前で）　○辞書の有効活用 ★毎週1回「ことばタイム」を実施 ★作文ノートの使用+学年の実態に合わせた「日記作文」（宿題）の実施 ・行事に合わせたテーマの実施 ・「書き方のきまり」「お手本作文」をノート裏表紙に貼らせる。 ★書かかせたままにしない工夫（添削、励まし、読み返しの習慣化）
話す スキル	○基本話型を生かし、相手に分かりやすく説明できるような指導支援。 ○朝の会での、1分間スピーチの充実（テーマの工夫、発達段階に応じた話型） ○家読発表会の実施と発表形態の工夫（国語教材による家読発表会） ○委員会活動による集会の実施　○音楽集会内での発表の設定 ★毎週1回「ことばタイム」を実施
聞く スキル	○朝の会での、1分間スピーチの工夫　○委員会活動による集会の実施 ○学習発表会や音楽集会内での発表の設定
その他	○あいさつ運動の奨励（人前で大きな声を出すことへの抵抗感をなくす。） ○朝の読書の実施（読み聞かせの実施）　○毎週1回、家読の日を設定 ○地域ボランティアの活用　○家庭への啓発 ○良好な人間関係の構築　★家庭音読の実施

４　本年度の成果と課題（4月と12月に児童と教員に実施したアンケート結果の比較から）

（１）成果

・「作文を書くことが好き、得意になった」と答えた割合が増えた。作文を書く事への抵抗も、全体的に少なくなってきていると考えられる。

・「クラス全員の前で発表することが好きになった」と答えた割合も増えた。クラス全体の前で自分の考えを発表することに少しずつ抵抗がなくなってきた児童が増えてきたと考えられる。また、友達の発表を聞いて新たな考え方に触れたり自分の考えと比較したりできるようになってきたと考える。

１年「ともだちにきいてみよう」

（２）課題

・発表は好きだが、人前で自分の考えを分かりやすく粘り強く説明することは苦手と感じる児童がまだ多くい。
「楽しい」＝「深まる」ではないので、学習が深まる楽しさを感じられる工夫をし、話し合い活動のさらなる充実を図る。
（ペアやグループでの話合いの場の設定。目的意識、相手意識をもたせる発表の場の設定等）

・「作文を書くことが好き」と答えた児童が増えた反面、「作文が嫌い、苦手」と答えた児童も多い。作文の好き嫌いが二極化してきているとも考えられる。定期的に作文を書く習慣を継続していくとともに、「書いて良かった」と子供たちが思えるような工夫をする。（先生からのコメント、声かけ、友達同士での良さ見つけ、担任による作文紹介、学年便り・学校便りへの掲載など。）